隔週金曜掲載

わかつく 和歌山を創る新聞

Vol.401
2026.11.13

認定特定非営利活動法人
わかやま NPO センター
〒640-8331 和歌山市美園町 5-6-12
TEL 073-424-2223　FAX 073-423-8355
E-mail info@wnc.jp　URL https://wnc.jp/
編集　志場 久起

わかやま NPO センターの現場から

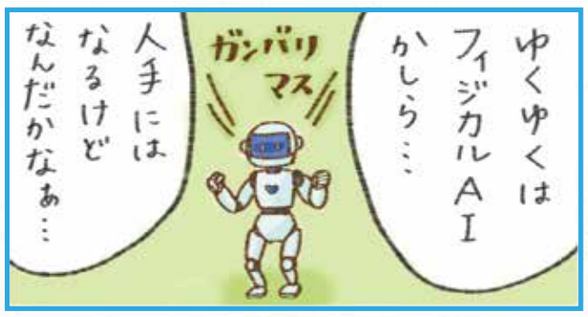
わかやま NPO センター理事長が隔週水曜に投稿「わかやま NPO センターの日記」。日々のわかやま NPO センターの活動について、また活動を通じて感じたことなど、ゆるく書いています。こちらからアクセスできます。











子育てママの笑顔を支える～カラフルサロン

発達特性のある子どもを育てる保護者が悩みや不安を一人で抱え込まないように、と活動を続ける「カラフルサロン」。代表の峯上彩さんに話をお聞きしました。


対面交流会の様子

自分の子育て経験を活かす

峯上さんの子どもが発達特性の診断を受けたのは3歳の頃でした。療育が始まるまでの間、子育てへの戸惑いや不安を抱えながら過ごしていたといいます。「誰かに相談したい」、「同じ悩みを持つ人と話したい」と思っていました。そんな時に出会ったママ友や先輩保護者との交流が、大きな支えになりました。

カラフルサロンの立ち上げへ

自分と同じように悩む保護者の力になりたい、と考えるようになった峯上さんは、2021年、新型コロナ禍で保護者同士の交流機会が減少するなか、オンラインでの「お話し会」をスタート。療育を始めたばかりの家庭や、発達について不安を抱える保護者にとって、気軽に話せる場としました。

「カラフル」という名称には、発達特性のある子どもたち一人ひとりが持つ様々な個性（色に例えるとカラフル）を尊重したいという思いが込められています。発達障害の分野では「グレーゾーン」という言葉が使われますが、峯上さんは、子どもたちにはそれぞれ違った色があり、その違いを認め合える社会になってほしいと話します。

サロンへの参加は？

現在、カラフルサロンには2つの参加方法があります。

まず、無料で利用できる「LINEオープンチャット」で、現在113人が参加しています。日々の悩みや情報交換を気軽に行える場として活用されています。

もうひとつは、和歌山市の「中之島つどい館」で月1回開かれるオフラインの対面交流会で、学校情報や進路、療育に関することなど幅広い話題が交わされています。様々な学校に通う子どもたちの情報を共有できるほか、新たなつながりが生まれる場となっています。

さらに、保護者自身の心身のリフレッシュを目的に、ボウリング大会やカラオケ大会なども開催しています。子育てを頑張る保護者が、少しでも自分の時間を楽しめる機会をつくっていきたいと話します。

マルシェの開催

今年11月11日には「カラフルサロンマルシェ」を開催しました。ヘッドスパや耳つぼケア、似顔絵、令翠学鑑定、パーソナルカラーなどのブースが並び、日頃から子育てに励む保護者を癒やす空間を提供しました。

参加者からは「リフレッシュできた」「癒やされた」といった声が寄せられ、峯上さんも手応えを感じました。今後も続けていきたいと意欲を見せています。

アートフェスタの開催へ

さらに11月29日には、中之島つどい館で「カラフルアートフェスタ」を開催します。発達特性のある子どもたちによる絵画や工作、写真、書などを展示するイベントで、参加費は無料。出展した全員に賞状が贈られる予定です。作品発表の場を設けることで、子どもたちの自己肯定感を育むとともに、交流の機会を広げることを目指しています。



サロンのこれから

峯上さんは、発達特性のある子どもを育てる家庭への支援をさらに充実させていきたい、そして、子どもの特性に合わせた生活を送るなかで仕事との両立に悩む母親たちを応援したいといいます。また、峯上さんは「一人で抱え込まずに話してほしい」と呼び掛けています。

子どもたちの個性を認め合い、保護者が笑顔で子育てできる地域社会を目指して。カラフルサロンの活動は、今日も多くの親子を支え続けています。

（森下和紀）

カラフルサロン
Instagram
@colorfulsalon2021

公式 LINE へは
Instagram の
プロフィール欄から

@COLORFULSALON2021

参加者募集中

わかやま被災者支援ネットワーク設立記念フォーラム

和歌山県、社会福祉法人和歌山県社会福祉協議会、特定非営利活動法人わかやま NPO センターの三者は今年 10 月に、和歌山県内で大規模災害が発生した際に、被災地支援活動を円滑に進め、被災地の早期復旧・復興をめざすために、災害中間支援組織「わかやま被災地支援ネットワーク」を設立しました。この設立を記念したフォーラムを開催します。

万が一の大災害にわたしたちはどう備えればいいか、実際の被災地ではどのような活動がなされたのか、ともに学びませんか。

日　程　12月6日（日）13:30～16:00

場　所　メディア・アート・ホール（和歌山県立図書館 2 階）

参加費　無　料（お申し込みが必要です）

内　容　基調講演「官民連携における災害中間支援組織の役割」

講師　阿部 陽一郎 さん（特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク 理事事務局長事務取扱）

パネルディスカッション「多様な支援をひとつの力に－行政・社協・NPO の連携を考える」

ファシリテーター　阿部 陽一郎さん

パネリスト　原　拓矢さん（災害支援プラットフォーム石川・石川県生活環境部女性活躍県民協働課課長補佐）

南出　考（和歌山県社会福祉協議会 災害福祉支援コーディネーター）

パネリスト続き

志場　久起（特定非営利活動法人わかやま NPO センター理事長）

河村　吉基（和歌山県危機管理部危機管理局防災企画課課長）

小林　久晃（和歌山県環境生活部生活局県民生活課課長）


2011 年紀伊半島大水害の際の新宮市内の被災状況（写真提供：新宮市社会福祉協議会）

【災害中間支援組織とは】

大規模災害が発生した際に、行政機関や災害ボランティアセンターなどと連携しながら、被災地支援に取り組む民間団体のコーディネートをおこなう組織。災害の激甚化などを背景に全国で設立が進められています。

主催：わかやま被災者支援ネットワーク
（和歌山県・和歌山県社会福祉協議会・特定非営利活動法人わかやま NPO センター）

【事務局】和歌山県環境生活部生活局 県民生活課
TEL 073-441-2092、メール e0313002@pref.wakayama.lg.jp

お申し込みはこちらから